

平成二十九年 度

大妻中野中学校

アドバンスト選抜入学試験

問題用紙

(第二回 二月一日

午後)

国語

座 席 番 号
番

受 験 番 号
番
氏 名

受験上の注意

- (一) この問題用紙は表紙を含めて9ページあります。
- (二) 試験開始後ただちにページ数を確認して下さい。
- (三) 問題用紙、解答用紙それぞれに座席番号と受験番号と氏名を忘れずに記入して下さい。
- (四) 座席番号と受験番号は算用数字で記入して下さい。
- (五) 試験時間は五十分です。
- (六) 解答は全て解答用紙に記入して下さい。
- (七) この試験は百点満点です。

① 次の文章をよく読んで、あとの各問に答えなさい。

例えば、テレビを見たり、マンガを読んだりして、「おもしろい」と感じたとき。その感情はテレビやマンガの内容や要素によって引き起こされたものではあるのですが、そう感じるためには、まず「おもしろい」「おもしろくない」という状況を①経験的に知っている必要があります。

これは、私たちが何かに触れたときに抱く感情や感覚、いえ、すべての思考や認識についていえることです。よく「ウザイ」とか「キモイ」とか「ウザイ」という状態がどのようなものであるかを知らないと、このことは使えません。「美しい」と感じるのも、「気持ちいい」と認識できるのも、赤ちゃんだった頃から、周囲の大人たちや同世代の子どもたちとの接触のなかで、経験によって私たちの内部に蓄積されたさまざまな記憶の積み重ねのおかげなのです。

言い換えれば、それらは私たちが意識的あるいは無意識的に学んだことなのです。人間の脳には、過去に見たり、聞いたり、触ったり、感動したり、泣いたり、笑ったり、怒ったり、考えたりしたこと、つまりX接経験したことや、書物、新聞、雑誌、テレビ、ラジオ、インターネット、あるいは友人などから得た膨大な情報(Y接経験)が蓄積されています。頭のなかでものすごいスピードでおこなわれているため、ふつうは意識する間もありませんが、それらの記憶と情報とを②駆使しながら、ものごとを考えたり、認識したり、感じたりしているということです。A

また、だから、私たちの抱く感情や感覚は、育ち方や生きている時代の社会状況、どんな人がまわりにいたかなど、その人が置かれている環境と無関係ではありえないということです。

登場人物の行動に怒りを感じるとき、それはその人が「そういうことをしてはいけない」という教育を受けてきたことを示しています。「いま流行っている」は、まさに自分のまわりでみんなが着て(使って、読んで)いるというだけのことですし、「ブランド」もまた、その商品の「品質がすぐれている」「センスがよい」などを表す記号のようなものですから、自分個人で内容を③吟味しているわけではありません。「値段が高いからものがよい」という判断も、私たちが生きている社会の経済的な状況から生まれた価値観です。B

私たちの価値判断や好みは、ほとんどの場合、「④その時代の文化的・社会的な空気」(これも「コンテキスト」です)を吸いつづけて生きてきたために生まれてきた感覚にすぎないということです。

そう考えると、⑤漱石が『文学論』で、人の好みは、それぞれの背後に存在する国籍・性別・受けた教育・宗教・実体験・読書体験・生育した社会の政治的状況や家庭環境に由来していると書いているのも、理解できると思います。

逆に言えば、

ということなのです。そしてたいいていの人はそれに気がついていません。

人は通常、自分のもっている枠組みのなかでしかものを考えることができせんから、「好きと言ったら好き!それが私」と思ってしまうですが、隣の町で育っていたら、あるいは一〇年前に生まれていたら、まったくちがった好みになっていたかもしれせん。文学というものが、ある時代の社会や文化から生まれたように、それを読む読者もまた、みずからの生きる時代や社会や文化に影響されているのです。C

もつとあてにならないのが、ことばそのものです。

そもそもことばは、「記号」です。「犬」は、私たちが「犬」と呼んでいる動物を表すことばですが、もちろん犬そのものではありません。口に出して「犬」と言えば、聞いた人は目の前に「犬」がいなくても犬を連想しますし、言った人と聞いた人はだいたい同じイメージを共有できます。つまり「ことばは記号である」ということは、「④何かを指し示すことはできるけれども、実体がない」と考えてください。

そのことばを私たちは、ふだん、固定的な意味が存在するものとして（安心して）扱っています。けれどもそれは、同じ社会に生きているからできることです。

例えば、**D**「⑤」のように「は、とくにお金について、惜しみなくたくさん使う様子ですが、これは日本が水の豊富な土地であることを表しています。場所が変わればことばの示すものは変わります。

また、ことばと意味の関係は時代とともに変化しています。古典の知識になりますが、「世の中」ということばは、平安時代では「男女の仲」という意味でした。**E**

ことばの示すものが相手に通じないとき、説明するのはとてもたいへんなことです。「犬」といって何を示すのかわからない相手がいたとしたら、どう説明しますか。

狂言の『蝸牛』^(注2)は、それをおもしろく使った作品です。「蝸牛」とは、なんのことはない、かたつむりのことです。太郎冠者は主人からかたつむりを取ってくるよう命じられますが、見たことがないので、説明を求めます。主人は「藪にすみ、頭が黒くて、腰に貝をつけている。ときどき角を出す。年を経たものは人くらいの大さきになることもある」と説明します（そんなばかな！）。**F** たしかに、これでは何のことだかわかりませんよね。それで太郎冠者は、偶然藪のなかで出会った山伏をかたつむりとまちがえてしまいます。山伏は腰にほら貝をつけていたのです。山伏は、「こいつはアホか」と思いますが、**⑥おもしろいので、「わしこそかたつむりだ」と言ってからかい、観るものの笑いを誘います。**

抽象的な事柄になればなるほど、ことばの説明はむずかしくなってきました。「**一**」ということばを皆さんは、どのように説明しますか。多少照れるかもしれませんが、考えてみてください。「好きだということ」「大切にすること」「いとおしく思うこと」……。私の授業をとっている学生の一人は「時間」と答えました。「その人のために時間を積み重ねてゆくこと」だということです。いいですね！。

(佐藤裕子『主人公はいない 文学って何だろう』フェリス女学院大学より出版)

(注) **注1** コンテキスト：文章の前後のつながり。文脈。

注2 狂言：日本伝統のこっけいな演劇。

注3 抽象的：物事が現実から離れ、具体性を持たないさま。

問一 ——部①「経験的に知っている必要があります。」とありますが、その説明として次の文が正しくなるように、空欄くうらんに当てはまる表現を本文中から三十字で探し、その初めと終わりの七字ずつを抜き出して答えなさい。

私たちが何かに触れたときに、必ず（ ） 三十字 （ ）を通して感じたり考えたりしなければならないということ。

問二 本文中のX 接経験とY 接経験が対義語（反対語）となるように、X・Yそれぞれの「接」の上に漢字一字を補いなさい。

問三 〳〵部①「駆使しながら」、②「吟味している」とありますが、①「駆使する」、②「吟味する」の意味としてそれぞれ最も適切なものを次のア～オの中から一つずつ選び、記号で答えなさい。

- ①「駆使する」
- ア、使いすてること。
 - イ、使いなれること。
 - ウ、かわるがわる使うこと。
 - エ、自由自在に使いこなすこと。
 - オ、人間の力で動かして使うこと。

- ②「吟味する」
- ア、念入りに調べて検討すること。
 - イ、物の性質や力をためすこと。
 - ウ、自分の意見を定めること。
 - エ、価値を理解し味わうこと。
 - オ、実際に経験すること。

問四 ——部②「その時代の文化的・社会的な空気」として、筆者が本文中にあげているのはどのような例ですか。次のア～オの中から適切なものを二つ選び、記号で答えなさい。

- ア、流行 イ、歴史 ウ、科学 エ、戦争 オ、教育

問五 — 部③「漱石」とは、明治時代の夏目漱石という作家のことです。夏目漱石の作品を次のア～オの中から一つ選び、記号で答えなさい。

- ア、蜘蛛くもの糸 イ、坊っちゃん ウ、走れメロス エ、銀河鉄道の夜 オ、高瀬舟

問六 本文中の に当てはまる表現として最も適切なものを、次のア～オの中から一つ選び、記号で答えなさい。

- ア、他人の価値観を認めなければ、人は社会について何も知ることができない
イ、自分を知るには、時代や社会や文化だけを知っていればよい
ウ、自分を信じるには、時代や社会や文化について、もっと話し合ったほうがよい
エ、他人の感覚は、時代や社会や文化とともに変わるから、あてにしてはならない
オ、自分の感覚は、それほどたしかなものでも、揺るぎないものでもない

問七 — 部④「何かを指し示すことはできるけれども、実体がない」とはどのようなことですか。「犬」の例を用いて、六十五～七十五字で答えなさい。

問八 — 部⑤「() のように」の空欄には、どのようなことばが入りますか。次の漢字を組み合わせた二字のことばを答えなさい。

水 気 流 清 湯 空 海

問九 — 部⑥「おもしろい」とありますが、山伏はどのようなことをおもしろいと思っていますか。なるべく本文中のことばを使って、二十五字以内で答えなさい。

問十 本文中の「**一**」にはどのようなことばが入りますか。あなたが考えた漢字一字のことばを答えなさい。ただし、本文中のことばを使わないこと。

問十一 I 、II は、本文中のいずれかのところに入ります。どこに入れたらよいかを の中から、それぞれ一つずつ選び、記号で答えなさい。

I 「南向きの暖かい部屋」は世界に共通する意味でしょうか。当然のことながら、「南向き」が暖かいのは、北半球に住む人間にとつただけです。南半球に住む人々には通じません。

II 「ヤバイ」は、「危険だ、まずい」の俗語ですが、いまの若い人たちは「すごくいい」の意味で使いますよね。

問十二 本文の内容とあっているものを、次のア～オの中から一つ選び、記号で答えなさい。

ア、テレビを見たり、マンガを読んだりして、「おもしろい」と感じたとしても、その感情はテレビやマンガの内容や要素によって引き起こされたものではない。

イ、人間は育ってくる過程で、意識的あるいは無意識的に学んできたことと無関係に何かを感じたり考えたりすることができない。

ウ、漱石が『文学論』で人の好みについて書いていることは、文学作品についてはあてはまるが、実際の人間や社会には必ずしもあてはまらない。

エ、ことなる時代や社会に生きている人間同士であっても、ことばに関しては固定的な意味が存在するものとして安心してあつかうことができる。

オ、私たちは狂言の『蝸牛』という話から、ことばの示すものが相手に通じないときにどのようなようにしたらよいかについて学ぶことができる。

□ 次の各問に答えなさい。

A 漢字の問題

問一 — 部の漢字の読み方をひらがなで答えなさい。

- ① 試験に備えて勉強する。
- ② 強い台風が日本を縦断した。
- ③ 姉妹で家事を分担する。
- ④ 類似したデザインの服が出回る。
- ⑤ 軽く会釈をして席につく。

問二 — 部のカタカナを漢字に直しなさい。

- ① 宿題をスマせてから出かける。
- ② 合格をカクシンする。
- ③ 試合のオウエンに行く。
- ④ 今日は母のタンジョウ日だ。
- ⑤ 友人をショウタイする。

B 慣用句・ことわざの問題

問三 ①～⑤の空欄には、共通する語が入ります。空欄に入る適語を漢字に直して答えなさい。

①をつっこむ……………興味・関心からある事に関係したり深入りしたりすること。
①を長くする……………心待ちにしている様子。

②をくくる……………どのような結果になってもいいように覚悟を決めること。
②を探る……………人の気持ちをうかがうこと。

③の荷が下りる……………責任や負担がなくなり安心すること。
③を落とす……………ひどくがっかりする様子。

④に小判……………価値の分からない人に貴重なものを与えても何の役にも立たないこと。
④の手も借りたい……………大変忙しく、人手不足であること。

⑤束三文……………たくさんあって値段がとても安いこと。
⑤の句が継げない……………驚きなどのため、次に言う言葉が出てこないこと。

C ことばのきまり・文法の問題

問四 次の(Ⅰ)群～(Ⅴ)群の言葉を使って文を作る時、不要になるものをそれぞれ二つずつ選び、記号で答えなさい。

(Ⅰ)群

ア、大事に イ、田舎から ウ、自分で エ、飼育箱で オ、聞いた カ、もらってきた キ、幼虫を
ク、弟は ケ、夏休みの コ、育てている サ、カブトムシの シ、作った

(Ⅱ)群

ア、振り子の イ、振り子時計に ウ、人間は エ、役立ってきた オ、法則は カ、発見した キ、ガリレオが
ク、時間を ケ、その後 コ、伝わるまで サ、応用されて シ、計るのに ス、何世紀もの間

(Ⅲ)群

ア、魚の イ、口の ウ、自分の エ、深い オ、光を カ、ものもある キ、すむ ク、おびきよせる
ケ、体から コ、えものを サ、中には シ、海に ス、真つ暗に セ、出して

(Ⅳ)群

ア、将来 イ、勉強することが ウ、かかさずに エ、言われて オ、私は カ、知らずに キ、働きたかったら
ク、話せると ケ、大事だと コ、英語講座を サ、海外で シ、視聴している ス、英語を セ、毎日
ソ、父から

(Ⅴ)群

ア、自然環境や イ、重大な ウ、上昇するだけでなく エ、言われている オ、変化し カ、暮らしに キ、進むと
ク、私たちの ケ、地球全体の コ、状況を サ、及ぼすと シ、気候が ス、気温が セ、生活が
ソ、温暖化が タ、影響を

